

令和7年2月23日(日)に開催した第2回目のテーマは
「庭木の整備を学び、空間を作る」でした。



梅がほころび始め、マルシェでにぎわう神社のクスノキ下に集合してのスタートでした。隣接する二社の謂われを神主さんからお伺いし、大牟田市役所の庁舎が完成した当初は、こちらの三笠神社までパレードが行われたことなどを知りました。

空き家まで移動し、持ち主の方から改めてお家の歴史や思い出を聞きました。庭の奥には防空壕があったこと、敷石に神社の廃石材が使われていることなど。昔、整地で掘り返していたら弥生式土器が出てきたという話しには一同どよめきました！

ほんの数年前まで手入れが続いていたものの、現在の庭はうっそうとしている状態です。

講師の(一財)福岡しみの森協会・水落代表理事より、現状解説や本日の作業行程を説明してもらいました。

「本来、庭の樹木は小さく育てるもの。今のように屋根上まで枝が伸びていると日当たりが悪くなるし、落ち葉が雨樋を詰まらせてしまうので家にとってよくない状態ですね」



まずは落ちている枝葉や残置物を集約し、動線確保をしてから、総勢約20名で空間整備に取りかかりました。



次々と枝等が積み上がってきます。



かつて神社で使われていたという敷石がこちら。



置物等は雑草に埋もれてしまい、隠れた状態でした。

今後の搬出作業が行いやすいように、陶器製やプラスチック製などと分別、整然と並べて集積をしていきます。

メンバーで手分けすると、縁側の下や敷地内のあちこちから、植木鉢や瓶などがこんなに集まりました！竹藪の根元に埋もれていた巨大な青い鉢は、体力自慢の(?!)男性二人がかりで掘り返して中に詰まっていた土をかき出したものです。



玄関前の様子。



(写真では少しわかりにくいかもかもしれませんが…)

伐採作業により、通り道が広くなりスッキリしました。



かつてこの庭には大きな池があったそうです。今回の作業で橋が現れ、子ども時代をこの場所で過ごした持ち主の方が懐かしそうにされていました。



講師からの
ワンポイントアドバイス

木に絡みつくツタは無理に除去をしなくても、このように根元を絶つておくことで、枯れて自然と落ちるようになります。

地域の歴史を聞き、汗をかきながら自分たちで作業を行い・・・、地元エリアへの愛着が高まるようなワークショップでした。高い部分の手入れも出来れば、さらに明るい雰囲気庭へと戻りそうです。

逆に、わずか数年の放置が家屋に与える影響というのも実感したところ。普段住んで使っている家でも手入れは欠かせませんね。

第3回目は3月20日(木・祝)に開催予定！

令和6年度最終回のテーマは「庭木の整備を学び、空間を作る②」です。